

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H30 入学 現 6年生	県	全国	県	全国
	(12月)	(4月)	(12月)	(4月)
	62.2	71	43.9	59
	(0.95)	(1.04)	(0.88)	(0.97)
R5 正答率の全国比	1.06		0.94	

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○国語は、県または全国平均を上回っている。算数は、県または全国平均を下回っている。

【国語について】

- ・今年度は、「書く」ことの本答率が高く、どの設問でも県または全国平均を上回っている。
- ・「資料の説明としてふさわしい内容を選択する」という設問における本答率が、県または全国平均を下回っている。

【算数について】

- ・県や全国平均を下回ってはいるが、どの設問においても同等の本答率と言える。
- ・「書く」ことの本答率においては、「資料から分かっていることを選び、その理由を書く」という設問における本答率が、県または全国平均を下回っている。しかし、「資料の〇〇に着目して、分かることを書く」という設問においては、県または全国平均よりも本答率が高い。

【意識調査について】

- ・自分肯定感が高まってきている。
- ・自分で計画を立てて学習することができている児童が少ない。
- ・「朝食を毎日食べていますか」の設問では、県または全国平均より低い。

少しずつではあるが、「書く」力が付いてきている。今後も授業だけでなく、日常の活動においても、「書く」場を多く設けていく。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

○自己の考えを形成するための授業実践

今年度の校内研究のテーマである『自分の考えを形成し、主体的に伝え合う』部分に焦点を当てて取り組む。「①思考ツールを用いた思考力・表現力の育成」、「②ICT機器の効果的な活用方法についての研究」の2点を中心に据える。

○基礎基本の定着と活用力を育成する授業の実践

「授業づくりのステップ1・2・3 vol.1&2」を基本とした授業づくりに努める。授業の「めあて」から学んだことを「まとめる」という流れをしっかりと作る。また、「書く活動」を多く取り入れる。

○主体的な学びを促す環境の整備

デジタル教科書やプレゼンテーションソフト、動画などを使い、学習への興味・関心を高めていく。また、既習事項や児童が身に付けなければならない学習用語などを掲示し、書いたり話したりする際の参考にさせる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

○ 朝の時間に、「花まるタイム」以外で、思考力を高めるための問題や思考ツールを効果的に用いる技能を身に付けさせる活動を取り入れる。特に、「書く」活動を意識した内容にする。

○ 今年度も、昨年度から引き続き、「生活チェック週間」を設定する。保護者の協力を得ながら、時間ごとに何をしたのか記録させていく。年間数回、設定する。